

# 教育委員会

## コラム Vol.10

### 教育長室の窓から

#### 全国に誇れる「ウミガメ科」

ご存知かと思いますが、毎年ウミガメが上陸し卵を産むことで知られる岸良海岸が校区の岸良学園には、「ウミガメ科」があります。学年に沿ったテーマを決めてウミガメについての学習を通して、ウミガメの保護とともに自然環境保護の大切さに対する学びを深めています。

最大の特徴は、保護者や地域住民との連携です。ウミガメの産卵シーズンには、地域の方々による砂浜巡回活動による上陸情報に基づき、子どもたちが採卵をし、学校にあるウミガメハウスに卵を移します。ふ化するまでの間子どもたちは、気温や湿度、砂の温度や雨量などを毎日決まった時間に観測し記録します。この記録は、かごしま水族館にも提供され貴重な資料としてウミガメの保護に役立っているとのこと。そして、ふ化後は、住民の皆さんと放流を行います。なんとこの活動は25年以上も続いているそうです。

また、ウミガメの保護をする中で、海岸に漂着するゴミの多さに気付いた子どもたちが、自分たちができることから始めた岸良海岸の清掃活動も地域の行事として定着してきました。ウミガメについての学習が、ウミガメの保護のみならず海岸清掃を通じた自然環境の保護、地域との一体感、さらに漂着ゴミを通して海流や諸外国の学習など、まさにSTEAM学習が実践されるとともに、郷土愛が育まれる全国に誇れる取り組みです。

4月からスタートする令和7年度の本町の小・中・義務教育学校では、これまでの取り組みの良さを伸ばすとともに、新しいことに一歩踏み出す学習を進め、選ばれる学校、全国に誇れる教育を目指したいと考えています。

なお、岸良学園はこれまでの実績が評価されて、令和6年度の環境美化の国内最高賞となる文部科学大臣賞を受賞いたしました。



#### 教育長の

#### ちょっといい話

### ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる

ほぼ毎朝、高山小学校周辺の道路のゴミなどを拾い、子どもたちや地域の人たちに気持ちよく行き来してもらえるように清掃をしている方がいます。ご存知かと思いますが、高山小学校長の畠野裕昭先生です。私など、通行する車から「何をやってんだろう」と見られることに気恥ずかしさを感じてしまいます。朝の挨拶をしながらほぼ毎日続けられている畠野校長先生に頭が下がるばかりです。ゴミを拾うということは、町をきれいにするばかりか、見ている人達にも町をきれいにしようとする浄化作用にも繋がるような気がします。

ところで、長年、トイレ清掃など清掃活動を続けておられる鍵山秀三郎さんは著書の中に、「トイレ清掃のよいところは、始める前と終わったあと、はっきりとした差を確認できることです。終わったあと、いうにいわれぬ爽快感を味わえるのもトイレ清掃ならではの醍醐味です。」というのがあります。畠野校長先生も、きっと爽快感を味わっているかと思いますが。私も朝の立哨・挨拶などを通して、少しでも爽快感が味わえるよう継続していきたいとあらためて思いました。

